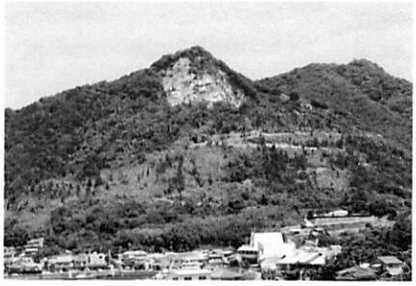
弓削通信 フェニックス

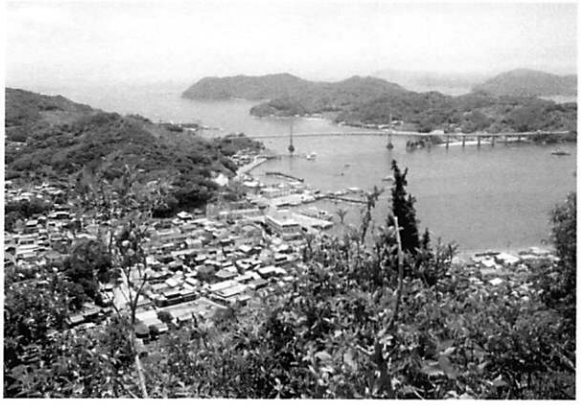
2010.6.15 №3（通巻 130）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生 318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

ハコモノ事業で過疎化が止まるか
チェックと提案で議会は責務を果たせ

「名ばかり議会」になってはいないか？





【写真説明】何十年ぶりかで所有者のご尽力で弓削石山登山道が通れるようになった。弓削大橋からと石山からの眺めです。なお登山はしっかりした足回りで。頂上付近では危険箇所もあるのでご用心！

●繰り返される議会改革論

大阪府知事が地方分権の実をあげるには議会改革が必要とさけび、民主党国会議員の職をなげうって名古屋市長になった河村たかし氏が、理事者（市長）側から議会改革を断行しようとしている事態には共通しているものがある。議会が果たすべき用を成していないという認識だ。

名古屋市では「名ばかり議会」といわれる現状が市長の「地域委員会」構想を産み、議会議員の抵抗を受けている。

この改革案に対する議員の抵抗一つ見ても全国共通現象にちかい。議会改革など議員に預けていては決してできっこないことがすけて見える。

●議員職は利権か

国会も選挙制度改革、議員定数削減改革案が出ては引っ込み出ては引っ込みで、まるで合併後の我が町議会の有様をみせつけられているかのようだ。

議会が何のためにあるのかを知りながら役目が果たせていない議員の群れ。そう、議員というポスト自体が立派な利権になっているのだろう。

ご承知のように我が町でも以下のような事態がある。議員として議決にも出席出来ない病気になり一年がくる議員がいる。参院選を機に補選でポストを後進のために空ける気もない。

それを横目に自浄力、向上力を発揮出来ない議会。ともに町民のために働く意志は皆無とみえる。

なぜそんなことになるのか。だれもが答えをしっている。なのに変えようとも変わろうとしない。

選挙に通ることが議員としての目的化している現状は、そのことで「名ばかり議会」への道を歩むこととなるのだ。

●ちょっと見回しても

我が町の近々の政策をちょっと見回しても議会の機能不全が明らかだ。長引く不況に端を発した政府の緊急雇用対策、緊急経済対策。国の失政を糊塗するための降ってわいたような補助金等を活用しての町のインフラ整備が、交通体系の見直しとして３セク（芸予汽船）、これから創る３セク（生名フェリーの後身）に、それぞれ快速船を一隻ずつ新造し貸与するとか、岩城役場庁舎（支所）の新築とか、弓削港待合所の新築とか。それも補助金に大幅な上乗せした予算で執行される。その一方で移住しようと思う者が、いや現に住んでいる者すらが一番不安に感じる医療体制の整備はほとんど手つかずのまま。

町の定住促進策が遅々として成果があがらない中、首をかしげたくなる箱物事業が何の抵抗もなく議会を通過する。

●さび付いている宝刀

定住促進というかけ声も、この町に住めばいいぞ、ということが発信出来なければ空しく響くのみだ。それもこれも利権にしがみつくしか能がないらしい議員を選び続けてきた帰結ではないのか。

議会が、議員がホントは一番大事なのにだ。

選挙という有権者の伝家の宝刀、錆びさせ刃こぼれさせてはあまりにもったいない。

みなさん、そうは思いませんか。

（平山和昭）

（上島町議会６月定例議会は６月17日（木）午前８時40分開始です。）

きどぐち（3）

青木喜代子

「らっしゃいませー」

カウンターに近づくと何人もの店員に声を掛けられた。いや正確には私の顔を見て声をかけたのはひとりで、後の声の主は背中をむけて他の客のサービスをしている。違うだろォー。

マニュアルか何か知らんが、声を出しゃいいって事にゃならんだろォー。心がこもっとらん！

大オバの怒りのモードにスイッチが入る。横で夫は「いちいち言わんでも」と笑っている。

外出して、コーヒーでもと喫茶店を探すが、無い。昔のような喫茶店が見あたらん。すべて禁煙席で、愛煙家の夫も笑い事ではなくなる。

四十年も前、私が高校生だったあの頃、百円玉にぎりしめて、制服着て喫茶店に寄っていた。深呼吸して重い木のドアを押す。

「いらっしゃい」と　カウンターの中からマスターが迎えてくれた。店内はうす暗くて難しそうな新聞を広げている人もいて。

マホガニーかなんか高そうなラックからＬＰ盤のレコードを取り出して、そっとプレーヤーの針を置き、音が流れるまでの時間がたまらなかった。少しだけ大人になれた気がした。

今はほとんど有線で賑やかすぎて、追いたくられるようにコーヒーを流し込む。

少し前のこと。差し入れにとハンバーガーを二十個注文した。カウンター嬢が笑顔で問うた。

「かしこまりました。こちらでお召し上がりでしょうか？」

「はぁ・・？」

なんかねえ・・・そこまで空気よめないのかしらねえ。

お知らせあれこれ

■上島町自治研究会（自治研）

町の活力維持には住民自治が不可欠です。任意団体「自治研」では毎月世話人によるテーマ持ちまわりで住民自治につながる語り合いと実践を目指します。参加者による事前の話題提供も受け入れます。

・毎月第１日曜日、午後１時半より４時頃まで。
・於・佐島粟手集会所（都合で会場変更もあり）
・趣旨に関心のある方は自由にご来場ください。
　７月は「岩城放課後クラブ」について
　８月は「町ホームページ」について
　９月は「大出俊幸氏によるミニ講演会」を予定。
・問い合わせ・弓削通信（平山）もしくは
　濱田（３７４・０８０７）
　宮脇（３７５・３１３１）の３世話人まで。

■ビデオサークル Trym(トライム)

町ＣＡＴＶ活性化についての町民集会での話し合いの中から開始した活動です。ＣＡＴＶ加入者増への寄与、趣味の錬磨および町民間交流をめざします。ＣＡＴＶ局による技術指導も受けられます。カメラお持ちの方の参加を募ります。（ボランテイア）

■町内催し物お気に入り

６月１日から月末まで弓削「せとうち交流館」で開催中「宮本常一がみた芸予の海とその暮らし」展。

弓削通信 フェニックス

2010.6.15 №3（通巻130）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール yugeru3@ray.ocn.ne.jp
ブログ http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

こどもの日に思うこと

人間として生きること第一優先に　岡　八代美

こどもの日に改めて中都職員の子どもの数を数えていた。中都は結婚ラッシュである。私は元来人間は結婚したければすればいいし、したくなければそのまま生きればいいという考えなので、特に女性が結婚のために倹約して結婚後の生活にすべての夢を託すような考え方をするのを好まなかった。結婚は、相手が好きでするもの、一人より二人で暮らしているほうが経済的にも楽だと思うのだが、男性が女性を養う事を良しとしている人たちと私とは話が合わないだろう。

好きな者同士が一緒になってどちらかが働けなくなった時は、働ける者が働いてその収入で暮らせばいい。こう言えるのは医療費や教育費が無料で、生活の大半が安心していられる社会でなければならないのだろうか。

私が子ども手当万歳と言ってる間に、NHK テレビで来年は半額になるなどと言っていた。NHK は見ない私だが連休中、民放があまりに馬鹿騒ぎをするので NHK にしておいたのだが民放と比べて何とおとなしい事、そして真面目くさって偏った意見が正論かのような言い方で放映している。

基地の問題でも、アメリカに対し正々堂々と言える覚悟があるのなら本州の人がそれを言おうよ。沖縄から出て行ってもらうためにどこまで犠牲を払えるのか、各々自分の出し分を覚悟しておこう。生活をどこまで落とせるのか、落とさねばならないのか。

孫子（まごこ）に借金を残すのではなくとよく言うけど、おおざっぱな言い方だが日本人の三分の一の人は孫子に借金を残すような暮らしはしていない。私はぜいたくをしている人がそういう言い方で人を脅かしていると思っている。少なくとも中都の職員の子どもは今のところ必要最低限の手当はもらっているが、その保障のために日本の借金が増えるとは考えたくない。

一番早いのは金持ちの老人がたくさんいるのだから老人の死後、財産の半分は国（他の老人）に出し、残り半分を親族がとるようにすればいい。社会保障が孫子の借金の元になる式の言い方をしているが、人間の生きる元のことをそういう表現でされたくない。生きることを第一優先にして医療費無料、学費無料、子ども手当（障害者手当）を出す事にして、後は日本で稼げることに力をいれよう。それが音楽でも美術でも科学でも。スウエーデンやデンマークのように・・・。

●失政のツケは有権者に

復活号で紹介した渋谷区の社会福祉法人「中都」の理事長、岡八代美さんからおたよりをいただいた。同封されていた機関誌に掲載されている八代美さんの一文を転載し紹介させていただく。

なぜ我らのまじめな日常生活の結果が政府から孫子の代に負担を残すと言われねばならないのか。政治とは何だ？

島に住みたい

①われこそがブランド品に

安藤朋生（ともき）茨城県

陸続きではあるが、過疎が進む我が町、茨城県桜川市真壁町も悩み多き地域である。真壁町と言えば誰でもが石材と答えるほど、ほとんどが石材業を営み、でなければ農家。それ以外は何もないといっていい土地柄。パラパラ点在する工業団地もあるにはあるものの、これまた人をあまり取らない。不景気のお陰である。

30～40分程でつくば市にも行けるが、やれ大卒だ、やれ経歴だ、やれ特殊技能はと、やれやれ尽くし。早いはなし大卒か専門卒、あるいは資格のない者には職がない。安藤もそのひとりではあるが地元で職を得るのは容易ではない。

田舎独特の風習もあったりで女手ひとつで娘を育てるにもきつい。

幸いというか、ある研究所に勤めていたことのある安藤。まだ派遣の仕事があり工場の研究開発チームに派遣されることになった。そこでも一番に聞かれたのが、どこの大学？である。もしくは何を専攻していたのか？。

派遣＝大卒という図式。派遣の内容とてピンからキリまであるのに、「派遣だから出来る人」という固定観念がいまだにあるということを垣間見た一言だった。

大卒ばかり採用し続ける工場の開発チームは、いわば大卒というブランド志向なだけにみえる。なぜこの開発に一流大卒の頭脳が欲しいのか、そのあたりは全く見えない。

笠間陶炎祭にてファンキーな紳士と２ショット
ご機嫌だぜー☆と紳士（笑）筆者向かって右

こういう旧態依然の会社や工場はまだまだたくさん存在しているようで、かくいう自分の娘にも、大卒という肩書きがなければしたいことを諦めざるを得ないのかと、日々不安に思う。まさに日本人の学歴志向は計り知れないところがある。

古い蔵を多く残すわが真壁町。一昨年３町村が合併し桜川市となった。

真壁の外周は石で栄えたが、町中は作り酒屋など蔵を持つ旧家が多い。そこに眠るひな人形をＰＲしたことで見事観光客を獲得した。いまでは蔵の町の雛祭りとして、年々観光客動員数は上がってきている。

古い蔵に古い雛人形。蔵に陽が射す一方で外周の石屋は年々縮小し、家業をたたむ者、家業を継ぐには不安があり町を離れる者、石屋と平行し田畑を守り農業に集中しようという者、悲喜交々とともに日陰になりつつある。

田畑がある石屋はまだ良い。安藤家のように、石しかない意志にかじりついて細々とやるしかない石屋もある。

石屋の苦境にしても中国やインドからの輸入品が増えたのも大きな原因で、国産の十分の一の値段で字彫りまで出来るのだから商売の上手下手以前の問題なのである。生きることは単純なほうがいいと思う反面、こうして田畑を持たない者には逃げ場はない。

こんな状況は、たぶん全国あちこち、あるいは、安藤の知人の住む離島も似たようなものなのかもしれない。

この町も離島も、多分少しのアイデアで復興できるかもしれないが、ただし一人では無理だろう。少なからぬ「これじゃダメだ」という思いを持った人達がいて、思いを形にしていく強さを育まねば、と思う。

わが町のブランドが石と蔵であるなら、島は海と自然豊かに暮らして来た人達がブランドではないだろうか。どこででも買えるものではないもの。ひとりひとりがブランド品という誇り。

実は、安藤は島に住みたいと思っている。そのことはまた次回に。

（つづく）

海の季節に先駆けて「瀬戸内の楽園」上梓

●元魚島村長、佐伯真登さんの著作が「螢翔手づくり文庫・第九十二集」として上梓された。

旧魚島村の紹介をかね、村の歩みの一端と合併後の日頃に至るまでの間の、折につけての想いが綴られている。

四十七年に及ぶ公務員生活でいかに離島を活性化させるかに心を砕かれた氏の、古里への思いはリタイアしても涸れることはない。

●上弓削にあるＮＰＯ法人「ふくふくの会」発行の「ふくふくレポート」は、隔月発行ながらたくさんの読者の心をとらえていると思う。

利用者や職員の顔出しも含めまるで家族の日常を見るように公開されるのはすばらしい。

高齢者介護の現場が、こうして明るく町民の目に触れることで「親はふくふくさんでお世話になってます」とさらりと言える雰囲気が定着した。